

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	運動療法学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院にて運動療法治療経験39年有する	担当	河元 岩男	授業方法	講義・実習	単位数	2
到達目標	1、理学療法における運動療法の位置づけ、歴史的背景を説明できる。 2、運動療法の定義、目的、種類を説明できる。 3、関節可動域制限に対する理論と方法を説明できる。 4、筋力増強運動、持久力増強運動の理論と方法を説明できる。 5、協調性改善、神経筋再教育の理論と方法を説明できる。			評価方法			
授業概要	解剖学・生理学・運動学・病理学等の基礎的知識に基づいて、運動療法を行う上で特に必要な基本的知識の整理と理解を再確認する。つぎに、関節可動域訓練、筋力増強訓練、持久力訓練、全身調整訓練、リラクゼーション協調運動訓練等、運動療法の基本的療法概念を学習する。			期末試験 60% 小テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	運動療法 I 徒手理学療法(四肢編)	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	運動療法の概念(歴史、定義、理学療法の中での位置付け)						
第2週	運動療法の基礎1(結合組織・関節の構造と機能)						
第3週	運動療法の基礎2(筋・神経系の構造と機能)						
第4週	基本的運動(力源の違いによる分類、筋収縮の状態の違いによる分類)						
第5週	小テスト1(前回までの内容)、関節可動域運動(目的、種類)、授業アンケート1						
第6週	関節可動域運動1(関節可動域制限)						
第7週	関節可動域運動2(維持目的の方法と実際)						
第8週	関節可動域運動3(改善目的の方法と実際)						
第9週	筋力維持増強運動1(目的と適応、筋力とは、筋力維持増強に必要な基礎知識)						
第10週	筋力維持増強運動2(筋力増強運動の理論と実際)						
第11週	持久力増強運動(持久力とは、筋持久力、全身持久力、持久力増強の理論)						
第12週	小テスト2(第6週～11週の内容)、全身調整運動、授業アンケート2						
第13週	協調性の改善(運動の協調性とは、協調運動障害とは、改善の理論)						
第14週	神経筋再教育(神経筋再教育とは、原理と方法、緒家の理論の紹介)						
第15週	国家試験問題の解説、授業アンケート3						
授業外学習指示等	項目の内容に沿って解剖学、生理学を復習すること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	運動療法学実習	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院にて運動療法治療経験39年有する	担当	河元 岩男	授業方法	講義・実習	単位数	1
到達目標	1、維持目的の関節可動域運動の理論を理解し実践できる。 2、関節モビライゼーションの理論を理解し実践できる。 3、筋ストレッチング・マッサージの理論を理解し実践できる。 4、筋力維持増強運動の理論を理解し実践できる。 5、筋持久力、全身持久力の理論を理解し実践できる。			評価方法			
授業概要	前期において、運動療法の基礎理論を学習した。この授業では、関節可動域訓練・個別筋筋伸張運動・筋力増強訓練・持久力訓練・協調訓練の実技を習得する			期末試験 60% 実技テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	運動療法 I 徒手理学療法(四肢編)	使用器材	セラバンド、鉄アレイ、エルゴメトリー				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	肩関節1 機能解剖学と運動 関節モビライゼーション						
第2週	肩関節2 ストレッチング、マッサージ						
第3週	肩関節3 筋カトレーニング						
第4週	肩関節まとめ 授業アンケート1						
第5週	肘関節・前腕 機能解剖と運動 関節モビライゼーション						
第6週	手関節・手指 機能解剖と運動 関節モビライゼーション						
第7週	肘関節・前腕、手関節・手指 まとめ 授業アンケート2						
第8週	股関節1 機能解剖と運動 関節モビライゼーション						
第9週	股関節2 ストレッチング、マッサージ						
第10週	膝関節1 機能解剖と運動 関節モビライゼーション						
第11週	膝関節2 ストレッチング、マッサージ						
第12週	足関節1 機能解剖と運動 関節モビライゼーション						
第13週	足関節2 ストレッチング、マッサージ						
第14週	下肢の筋カトレーニング						
第15週	下肢のまとめ 授業アンケート3						
授業外学習指示等	項目の内容に沿って解剖学、生理学、運動学を復習すること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	内部障害系理学療法学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院にて呼吸・循環障害系患者の治療経験34年	担当	柴田 和生	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	病態に応じた理学療法プログラム評価実施することができる。 病態に応じた理学療法プログラムを立案することができる。 呼吸介助手技や運動指導を実施できる。			評価方法			
授業概要	呼吸器系疾患とがんのリハビリについて学ぶ。 成績評価は授業ごとの要点をまとめた前回授業範囲の小テスト20%・期末テスト80%の総合により評価する。			期末試験 80% 小テスト20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	ビジュアルレクチャー内部障害理学療法学 イメカラ イメージするカラダのしくみ 循環器	使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	総論						
第2週	呼吸器の解剖						
第3週	呼吸器の生理①						
第4週	呼吸器の生理②						
第5週	フィジカルアセスメント						
第6週	呼吸機能検査						
第7週	COPD・気管支喘息						
第8週	肺水腫 間質性肺炎						
第9週	肺結核後遺症 外科手術後						
第10週	睡眠時無呼吸症候群 排痰法(体位排痰法 徒手呼吸介助 胸郭可動域運動) ①						
第11週	排痰法(気道内分泌物吸引) ② 人工呼吸 HOT						
第12週	有酸素トレーニングとレジスタンストレーニング						
第13週	がんのリハビリ ①						
第14週	がんのリハビリ ②						
第15週	がんのリハビリ ③						
授業外 学習指示等	この授業は、解剖学、生理学、運動学、運動生理学、内科学、病理学などを基盤に行われるものであり、学習の準備としては毎回の授業に合わせてこれらの科目を十分復習をしてから講義に臨むこと。(60分)						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	内部障害系理学療法学実習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院にて呼吸・循環障害系患者の治療経験34年	担当	柴田 和生	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	循環器障害の重症度評価と理学療法評価およびアプローチを説明することができる。代謝障害の重症度評価と理学療法評価およびアプローチを説明することができる。			評価方法			
授業概要	循環器障害・代謝障害を系統別に分類し、障害を引き起こす疾患の成り立ちを解説した上で理学療法の基礎的なガイドラインを提示し、基本的な治療方法を実践する。成績評価は授業ごとの要点をまとめた前回授業範囲の小テスト20%・期末テスト80%の総合により評価する。			期末試験 80% 小テスト20% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	ビジュアルレクチャー内部障害理学療法学 イメカラ イメージするカラダのしくみ循環器	使用器材					
週	授業項目・内容				実施結果		
第1週	循環器系の解剖学・生理学						
第2週	循環器系の生理学						
第3週	循環不全の病態と呼吸器疾患（心不全の病態）						
第4週	循環不全の病態（心筋虚血の病態）						
第5週	循環不全の病態 大動脈疾患・閉塞性動脈硬化症の病態）						
第6週	循環不全の病態（DVTの病態）						
第7週	循環器理学療法のための評価（Ⅰ）						
第8週	循環器理学療法のための評価（Ⅱ）						
第9週	循環器理学療法基本手技（運動処方）						
第10週	循環器理学療法基本手技（1次救命処置）						
第11週	代謝疾患(糖尿病)総論						
第12週	代謝疾患(糖尿病)の生理学						
第13週	代謝疾患(糖尿病)の理学療法評価						
第14週	代謝疾患(糖尿病)の理学療法						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	この授業は、解剖学、生理学、運動学、運動生理学、内科学、病理学などを基盤に行われるものであり、学習の準備としては毎回の授業に合わせてこれらの科目を十分復習をしてから講義に臨むこと。（60分）						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	筋骨格障害系理学療法学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	整形外科疾患患者への治療経験有り	担当	柴田 和生	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 各種骨関節障害について理解し、その特徴を説明することができる。 2. 各種骨関節障害に対する適切な理学療法評価項目を説明することができる。 3. 各種骨関節障害に対する適切な介入プログラムを説明することができる。 4. 各種骨関節障害に対するリスク管理を説明することができる。			評価方法			
授業概要	筋骨格系に関する疾患別理学療法について、評価、問題点抽出、目標設定、プログラム作成及び運動療法、注意点等について学習する。 成績評価は授業ごとの要点をまとめた前回授業範囲の小テスト20%・期末テスト80%の総合により評価する。			期末試験 80% 小テスト20% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	ビジュアル実践リハ整形外科リハビリテーション	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	肩関節周囲炎 評価と治療 ①						
第2週	肩関節周囲炎 評価と治療 ②						
第3週	肩の外傷 評価と治療 ①						
第4週	肩の外傷 評価と治療 ②						
第5週	上腕骨骨幹部 上腕骨遠位部の骨折評価と治療 ①						
第6週	上腕骨骨幹部 上腕骨遠位部の骨折評価と治療 ②						
第7週	手関節及び手指の骨折 神経障害 胸郭出口症候群 評価と治療 ①						
第8週	手関節及び手指の骨折 神経障害 胸郭出口症候群 評価と治療 ②						
第9週	頸部疾患 評価と治療 ①						
第10週	頸部疾患 評価と治療 ②						
第11週	腰部疾患 評価と治療 ①						
第12週	腰部疾患 評価と治療 ②						
第13週	脊椎手術・側弯症 評価と治療						
第14週	末梢神経損傷 評価と治療						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	①関節に生じやすい整形外科的疾患について、機能解剖と関連して何故生じやすいのか述べられること。 ②関節ごとに必要な理学療法評価と効果的な理学療法について述べられること。 ③評価結果が示す病理変化や機能障害について病期に応じて適切な理学療法介入方法を述べられること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	筋骨格障害系理学療法実習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	整形外科疾患患者への治療経験有り	担当	柴田 和生	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 各種骨関節障害について理解し、その特徴を説明することができる。 2. 各種骨関節障害に対する適切な理学療法評価項目を説明することができる。 3. 各種骨関節障害に対する適切な介入プログラムを説明することができる。 4. 各種骨関節障害に対するリスク管理を説明することができる。			評価方法			
授業概要	疾患別理学療法について、評価、問題点抽出、目標設定、プログラム作成及び運動療法、注意点等について学習する。 成績評価は授業ごとの要点をまとめた前回授業範囲の小テスト20%・期末テスト80%の総合により評価する。			期末試験 80%  小テスト20%  （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	ビジュアル実践リハ整形外科リハビリテーション	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	股関節及び大腿の骨折 評価と治療 ①						
第2週	股関節及び大腿の骨折 評価と治療 ②						
第3週	変形性股関節症・股関節脱臼 評価と治療 ①						
第4週	変形性股関節症・股関節脱臼 評価と治療 ②						
第5週	変形性膝関節症 評価と治療 ①						
第6週	変形性膝関節症 評価と治療 ②						
第7週	膝靭帯損傷 半月板損傷 評価と治療 ①						
第8週	膝靭帯損傷 半月板損傷 評価と治療 ②						
第9週	下腿骨骨折 足関節周囲の骨折 評価と治療 ①						
第10週	下腿骨骨折 足関節周囲の骨折 評価と治療 ②						
第11週	膝関節靭帯と半月板の損傷 総論						
第12週	膝関節靭帯と半月板の損傷 評価と治療						
第13週	足部の捻挫・アキレス腱断裂 評価と治療						
第14週	リウマチ 評価と治療①						
第15週	リウマチ 評価と治療②						
授業外学習指示等	①関節に生じやすい整形外科的疾患について、機能解剖と関連して何故生じやすいのか述べられること。 ②関節ごとに必要な理学療法評価と効果的な理学療法について述べられること。 ③評価結果が示す病理変化や機能障害について病期に応じて適切な理学療法介入方法を述べられること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	臨床運動学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院にて歩行疾患患者への訓練指導経験有り	担当	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 正常歩行について歩行周期を踏まえ説明できる。 2 歩行パラメータの計測ができる。 3 異常歩行について特徴を理解し説明ができる。			評価方法			
授業概要	歩行に関する知識を深め、歩行観察・分析ができるよう学習する。			期末試験 70% レポート 20% 実技テスト10% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	観察による歩行分析	使用器材	パソコン・配布資料				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	オリエンテーション・正常歩行について						
第2週	歩行周期と各相について						
第3週	正常歩行周期の実技練習						
第4週	実技テスト(正常歩行周期各相における実技と説明)						
第5週	歩行パラメータの計測方法・歩行する身体の基本的な見方						
第6週	パッセンジャーとロコモーターについて						
第7週	ロッカーファンクションについて						
第8週	正常歩行観察						
第9週	正常歩行分析 ①						
第10週	正常歩行分析 ②						
第11週	異常歩行について						
第12週	異常歩行の観察・実技 ①						
第13週	異常歩行の観察・実技 ②						
第14週	国試対策(臨床運動学分野)						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	事前に教科書を読み、専門用語等ノートにピックアップし調べること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	日常生活活動学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院にてADL訓練指導18年有する	担当	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	ADLについて理解し、バーセルインデックスやFIMを使ってADL評価ができる。			評価方法			
授業概要	日常生活活動(ADL)に関する知識を深める。			期末試験 100%  (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	日常生活活動学テキスト	使用器材	配布資料				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	ADLの概念と範囲について						
第2週	日常生活活動の評価について①						
第3週	日常生活活動の評価について②						
第4週	動作観察と動作分析について						
第5週	ADL評価の実際(バーセルインデックス)						
第6週	ADL評価の練習(バーセルインデックス使用)						
第7週	ADL評価の実際(FIM)						
第8週	ADL評価の練習(FIM使用)						
第9週	補装具について						
第10週	杖・松葉杖の調整法について						
第11週	杖・松葉杖の調整法の練習						
第12週	車椅子の種類と構造・メンテナンス方法						
第13週	国家試験過去問(ADL分野、実地問題含む)①						
第14週	国家試験過去問(ADL分野、実地問題含む)②						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	事前に教科書を読み、専門用語等ノートにピックアップし調べること。						



令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	日常生活活動学実習	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院にてADL訓練指導18年有する	担当	安岡 武紀	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1 各疾患でのADLでの問題点を抽出し、ADL訓練ができる。 2 起居動作や移動動作における問題点を動作観察・分析から説明できる。 3 適切な移乗介助ができる。			評価方法			
授業概要	日常生活活動(ADL)に関する実技の習得。			期末試験 70% 実技テスト 30% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	日常生活活動学テキスト	使用器材	ベッド、車椅子、松葉杖、一本杖				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	基本動作について実技(寝返り動作:背臥位⇔腹臥位)						
第2週	基本動作について実技(背臥位からの座位への起き上がり動作)						
第3週	基本動作について実技(椅座位からの立ち上がり動作)						
第4週	基本動作について実技(床からの立ち上がり動作)						
第5週	歩行指導(杖歩行含む)						
第6週	ADLを支援する機器						
第7週	疾患別ADL指導:中枢神経・神経筋疾患患者のADL(片麻痺編)						
第8週	疾患別ADL指導:中枢神経・神経筋疾患患者のADL(パーキンソン病編)						
第9週	疾患別ADL指導:中枢神経・神経筋疾患患者のADL(頸髄・脊髄損傷編)						
第10週	疾患別ADL指導:関節リウマチ患者のADL						
第11週	疾患別ADL指導:大腿骨頸部骨折患者のADL						
第12週	疾患別ADL指導:変形性膝関節症・大腿切断患者のADL						
第13週	車イス動作実技(キャスター上げ含む)						
第14週	トランスファー実技全般						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	事前に教科書を読み、専門用語等ノートにピックアップし調べること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	地域リハビリテーション学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	介護老人保健施設、訪問介護の経験有り	担当	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	地域リハビリテーションにおいて、介護保険の仕組みや理学療法士の役割や仕事について説明ができる。			評価方法			
授業概要	1 地域リハビリテーションとは何かを理解し、介護保険制度の知識を深める。 2 地域リハビリテーションに関する様々な制度を理解する。 3 高齢者の特徴を理解する。			期末試験 100%  （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	地域リハビリテーション学テキスト	使用器材	パソコン・配布資料				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	地域リハビリテーション学総論						
第2週	地域リハビリテーションの考え方						
第3週	介護保険制度下のリハビリテーション						
第4週	介護保険サービス概論						
第5週	地域包括ケアシステムの中での理学療法士の役割						
第6週	地域支援事業に中での理学療法士の役割						
第7週	介護保険サービス下での理学療法士の役割						
第8週	介護老人福祉施設での理学療法士の役割						
第9週	介護老人保健施設での理学療法士の役割						
第10週	訪問リハビリテーションでの理学療法士の役割						
第11週	通所リハビリテーションでの理学療法士の役割						
第12週	通所介護での理学療法士の役割						
第13週	理学療法士が考える施設における体操・レクリエーションについて						
第14週	国試対策（地域リハビリテーション分野）						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	事前に教科書を読み、専門用語等ノートにピックアップし調べること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	精神医学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	各精神疾患について特徴を理解し説明ができる。			評価方法			
授業概要	精神疾患について理解する。			期末試験 100%  (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	精神神経疾患ビジュアルブック	使用器材	パソコン・DVD・配布資料				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	認知症総論(精神機能と障害)						
第2週	アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症						
第3週	ピック病・レビー小体型認知症						
第4週	てんかん						
第5週	アルコール依存症・アルコール以外の精神作用物質依存						
第6週	うつ病						
第7週	双曲性障害						
第8週	統合失調症						
第9週	不安症・強迫症						
第10週	急性ストレス反応・PTSD						
第11週	睡眠障害						
第12週	摂食障害						
第13週	パーソナリティー障害						
第14週	国家試験過去問(精神医学分野)						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	事前に教科書を読み、専門用語等ノートにピックアップし調べること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	理学療法評価学実習Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	各種検査法・機能評価の経験を有する	担当	西山 栄一	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	評価の意義を理解し、傷害の判定とやり方を学ぶ。			評価方法			
授業概要	<p>理学療法評価学実習Ⅱでは、中枢神経系障害の機能評価の手段として必要な各種の検査法について講義するとともに、その検査結果をいかに統合し、解釈して問題点の抽出や治療目標の設定を行うかを解説する。</p> <p>具体的には、片麻痺機能テスト、筋緊張検査、反射検査、姿勢反応、協調性検査、感覚検査などを取り上げ、それらの検査の意義、正常と異常の差異について理解させるとともに、複数の検査結果からいかなる障害像を呈するのかを解説する。</p>			<p>期末試験 80% 小テスト 20%</p> <p>(100点換算で60点以上で合格)</p>			
教科書等	理学療法評価学 ベッドサイドの神経の診かた	使用器材	検査器具一式				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	オリエンテーション・整形外科的検査(頰椎)						
第2週	整形外科的検査(胸郭)						
第3週	整形外科的検査(腰椎及び下肢)						
第4週	整形外科的検査(上肢)						
第5週	小テスト1(整形外科)、授業アンケート						
第6週	感覚検査、反射(深部反射・表在反射)						
第7週	反射(病的反射)						
第8週	小テスト2(感覚、反射)、授業アンケート						
第9週	筋緊張検査、協調性検査						
第10週	高次脳機能検査						
第11週	意識障害・痛みの検査						
第12週	片麻痺機能検査(上田法 上肢)						
第13週	片麻痺機能検査(上田法 下肢)						
第14週	片麻痺機能検査(Brunnstrom法)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	解剖学、運動学、生理学を理解していると仮定し授業展開します。基礎勉強をお願いします。						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	理学療法評価学実習Ⅲ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院で検査・評価・手技療法の経験有り	担当	西山 栄一	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	評価の実際を実技を通して学ぶ。			評価方法			
授業概要	中枢神経系、筋骨格系、内部、発達障害の機能評価の手段として必要な各種検査法について講義・実習するとともに、その検査結果をいかに統合し解釈して問題点の抽出や治療目標の設定を行うかを解説する。また、各障害に対する治療手技や方法を学ぶ。			実技試験 80% 小テスト 20%  (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法評価法・臨床実習とケーススタディ	使用器材	ティルトテーブル、検査器具一式				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実 施 結 果	
第1週	オリエンテーション、臨床実習とは						
第2週	臨床実習における評価と心構え、学生のあるべき態度						
第3週	レポートの書き方 ボトムアップ、トップダウン						
第4週	バイタル測定						
第5週	ティルトテーブル						
第6週	小テスト1 授業アンケート						
第7週	整形外科的検査(腰椎及び下肢)						
第8週	整形外科的検査(上肢)						
第9週	協調性検査						
第10週	小テスト2(整形外科、協調性)、授業アンケート						
第11週	片麻痺機能検査(上田法 上肢)						
第12週	片麻痺機能検査(上田法 下肢)						
第13週	動作分析(寝返り、起き上がり)						
第14週	診療記録の書き方(SOAP)						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	理学療法評価学Ⅱの応用になるので理論を事前に把握しておきましょう。						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	物理療法学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	各種物理療法・各治療器の使用経験有り	担当	西山 栄一	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	臨床で扱う物理療法機器の原理、効果を学ぶ。			評価方法			
授業概要	物理の理論を理解して、各物理的な療法、各治療器の使用法、注意点、適応などを学ぶ。			期末試験 60% レポート20% 平常点20% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	理学療法学テキスト 物理療法	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	物理学の復習						
第2週	温熱療法 ① ホットパック						
第3週	温熱療法 ② パラフィン						
第4週	温熱療法 ③ 超短波、極超短波、超音波						
第5週	小テスト1 授業アンケート						
第6週	寒冷療法 ① アイスマッサージ						
第7週	寒冷療法 ② 極低温療法						
第8週	光線療法 紫外線、赤外線、レーザー						
第9週	水治療法 ① 過流浴、気泡浴						
第10週	水治療法 ① ハバードタンク						
第11週	小テスト2 授業アンケート						
第12週	電気療法 ① 低周波						
第13週	電気療法 ① 干渉波						
第14週	牽引療法 頸椎、腰椎						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。授業中に全ての範囲を網羅することは困難ですので、復習をかねて授業を行った範囲については教科書を読むようにして下さい。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	物理療法学実習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	各種物理療法・各治療器の使用経験有り	担当	西山 栄一	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	物理療法機器を一人でも扱えるようになる。			評価方法 実技試験 80% 小テスト 20% （100点換算で60点以上で合格）			
授業概要	各種物療機器の取り扱い方と実技を行い技法を習得する。						
教科書等	理学療法学テキスト 物理療法	使用器材	物理療法機器				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	温熱療法実技 ① ホットパック						
第2週	温熱療法実技 ② パラフィン						
第3週	温熱療法実技 ③ 極超短波						
第4週	温熱療法実技 ④ 超音波						
第5週	寒冷療法実技 アイスマッサージ						
第6週	小テスト1 授業アンケート						
第7週	光線療法実技 紫外線、赤外線、レーザー						
第8週	水治療法実技 ① 過流浴						
第9週	水治療法実技 ② ハバードタンク						
第10週	小テスト2 授業アンケート						
第11週	電気療法実技 ① 低周波						
第12週	電気療法実技 ② 干渉波						
第13週	牽引療法実技 頸椎、腰椎						
第14週	マッサージ実技 マッサージ						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	授業ではより多く機械に触れ、臨床で扱えるようにしましょう。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	理学療法技術論	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	機能評価・手技療法等の経験有り	担当	西山 栄一	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	解剖学・生理学・運動学・病理学等の基礎的知識に基づいて、関節運動学を勉強し、さらにそれを基に、特殊テクニックを習得する。			評価方法 実技試験 50% 理論試験 50% （100点換算で60点以上で合格）			
授業概要	解剖学・生理学・運動学・病理学等の基礎的知識に基づいて、関節運動学を勉強し、さらにそれを基に、特殊テクニックを習得する。						
教科書等	プリント、理学療法特殊テクニック	使用器材	スライド、ビデオ、DVD				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	関節運動学 その1	◎凹凸の法則、副運動、構成運動など					
第2週	関節運動学 その2	◎各関節(肩・肘・手・指)					
第3週	関節運動学 その3	◎各関節(股・膝・足指)					
第4週	小テスト1 授業アンケート						
第5週	関節トレーニング	理論・実技					
第6週	関節モビライゼーション	理論・実技					
第7週	関節ファシリテーション	理論・実技					
第8週	筋・筋膜リリース	理論・実技					
第9週	筋・筋膜リリース2	理論・実技					
第10週	小テスト2 授業アンケート		理論・実技				
第11週	関節運動学的アプローチ その1	理論・実技					
第12週	関節運動学的アプローチ その2	理論・実技					
第13週	関節運動学的アプローチ その3	理論・実技					
第14週	マッサージ	理論・実技					
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	予習としてDVDを見ておく事が大切。						



令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	理学療法学演習Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	チーム医療、メンタルサポート介入経験13年	担当	松本 和代	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	基礎学習を定着させ、応用問題が解けるようになる			評価方法			
授業概要	理学療法を展開するにあたり、基礎知識の整理と臨床への応用展開への疾患の理解をねらいとする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	過去の国家試験問題	使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	解剖学						
第2週	生理学						
第3週	運動学						
第4週	一般臨床						
第5週	精神医学・臨床心理						
第6週	神経筋障害疾患						
第7週	人間発達・小児発達						
第8週	内部障害・理学療法評価学						
第9週	理学療法 運動療法学						
第10週	理学療法 物理療法学						
第11週	理学療法 装具療法学						
第12週	理学療法 骨関節障害						
第13週	理学療法 中枢神経障害						
第14週	地域リハビリテーション（介護保険について）						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	客観的臨床能力演習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	松本 和代	授業方法	演習	単位数	2
到達目標	今までの授業の集大成とし、一連の復習を行う			評価方法			
授業概要	臨床実習を控えた学生に、知識・技能・態度の3領域の再学習を行う。臨床で遭遇するであろう事象を繰り返し学習し、演習する事によって臨床実習をより多きものにする事をねらいとする。			実技テスト 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	配布資料	使用器材					
週	授業項目・内容				実施結果		
第1週	客観的臨床能力試験(objective structured clinical examination OSCE)の概要 動作のとらえ方						
第2週	標準予防策(手洗い) ホットパック 三角布装着 装具の装着 車椅子駆動介助						
第3週	療法士面接 バイタルチェック						
第4週	腱反射 病的反射(上肢・下肢)						
第5週	関節可動域測定(上肢・下肢)						
第6週	徒手筋力検査法(上肢・下肢)						
第7週	感覚検査 形態測定						
第8週	ベッドからの起き上がり(分析・中等度の誘導補助)						
第9週	立ち上がり動作(分析・中等度の誘導補助・最大の誘導補助)						
第10週	移乗動作(分析・中等度の誘導補助・最大の誘導補助)						
第11週	トイレ動作(分析・中等度の誘導補助・最大の誘導補助)						
第12週	着衣動作(分析・中等度の誘導補助・最大の誘導補助)						
第13週	入浴動作(分析・中等度の誘導補助・最大の誘導補助)						
第14週	歩行(分析・中等度の誘導補助・最大の誘導補助)						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	復習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	義肢装具学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院で義肢装具のチェックアウト等の経験有り	担当	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	臨床で用いる義肢装具の基本的知識を増やす。 臨床で使用される義肢装具の種類、特徴、機能が説明できる。			評価方法			
授業概要	義肢装具に関する基本的事項を学習し、各種義肢装具の特性と構造を紹介する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	15レクチャーシリーズPTテキスト義肢装具学	使用器材	上下肢義足、上下肢装具、体幹装具、自助具				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	装具学総論						
第2週	下肢装具の部品と機能						
第3週	短下肢装具						
第4週	長下肢装具・股装具・膝装具						
第5週	体幹装具・上肢装具						
第6週	疾患別装具の処方 脳卒中片麻痺の装具						
第7週	機能的装具 Gait Solution・Gait Innovation						
第8週	疾患別装具の処方 整形外科疾患の装具・関節リウマチの装具						
第9週	疾患別装具の処方 対麻痺・小児麻痺の装具						
第10週	装具製作実習 ギプス採型						
第11週	義肢学総論						
第12週	大腿・下腿切断						
第13週	上肢切断						
第14週	大腿義足の異常歩行						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	生活環境論	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	家屋改修を含めた生活環境調整経験有り	担当	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 疾患や障害と生活環境の関係を理解する。 2 住環境の必要性や具体例を理解する 3 代表的な自助具や福祉機器について理解する。			評価方法			
授業概要	リハビリテーションに関係が深い、生活環境について学ぶ。 理学療法士として専門的な視点で、対象者を取り巻く生活環境をどのように捉えるのかを学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法学テキスト 生活環境論	使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	生活環境論 総論						
第2週	生活環境整備の留意点						
第3週	国際障害分類(ICIDH)						
第4週	国際生活機能分類(ICF)						
第5週	バリアフリーの関連諸制度						
第6週	ノーマライゼーション						
第7週	ユニバーサルデザイン						
第8週	住環境 意義						
第9週	住環境 流れと注意点						
第10週	住環境 整備対策						
第11週	福祉用具 種類と機能						
第12週	福祉用具 法律面・制度面						
第13週	事例検討 住環境						
第14週	事例検討 福祉用具						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和3年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	理学療法評価学演習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院等にて評価学に該当する検査・測定等経験9年	担当	山本 裕晃	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1 代表的な疾患に対して、障害像を理解し説明できる。 2 代表的な疾患に対して、障害像を踏まえた理学療法評価を選択できる。 3 代表的な疾患に対して、障害像を踏まえた評価方法を理解し説明できる。 4 代表的な疾患に対して、評価結果から問題点を抽出できる。			評価方法			
授業概要	中枢神経系、筋骨格系、内部、発達障害の機能評価の手段として必要な各種検査法について講義・実習するとともに、その検査結果をいかに統合し解釈して問題点の抽出や治療目標の設定を行うかを解説する。			実技試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等		使用器材	ティルトテーブル、検査器具一式				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	理学療法評価学 総論						
第2週	レポートの書き方 ボトムアップとトップダウン						
第3週	臨床評価プランニング実践 脳血管疾患						
第4週	臨床評価プランニング実践 大腿骨頸部・転子部骨折						
第5週	臨床評価プランニング実践 腰椎圧迫骨折						
第6週	臨床評価プランニング実践 変形性股関節症						
第7週	臨床評価プランニング実践 変形性膝関節症						
第8週	臨床評価プランニング実践 パーキンソン病						
第9週	臨床評価プランニング実践 脊髄損傷						
第10週	臨床評価プランニング実践 頸髄損傷						
第11週	臨床評価プランニング実践 切断						
第12週	臨床評価プランニング実践 運動失調						
第13週	診療記録の書き方(SOAP)						
第14週	高頻度利用評価指標ガイド①						
第15週	高頻度利用評価指標ガイド②						
授業外学習指示等	復習は、授業で実施した内容の重点事項を中心に振り返ること。						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	整形外科Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院で整形外科患者の療法経験有り	担当	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 整形外科疾患の病態を理解する。 2. 整形外科疾患の症状・理学所見・診断方法を理解する。 3. 整形外科疾患の保存・手術治療を理解する。 4. 整形外科疾患のリハビリテーション治療を理解する。			評価方法			
授業概要	整形外科疾患の実際をテーマに各論を学ぶ。各部位ごとに発生する疾患の原因、症状、検査、診断、治療、リハビリテーションの実際を学ぶ。 成績評価は授業ごとの要点をまとめた前回授業範囲の小テスト20%・期末テスト80%の総合により評価する。			期末試験 80% 小テスト20%  （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	整形外科疾患ビジュアルブック	使用器材	検査器具一式				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実 施 結 果	
第1週	オリエンテーション						
第2週	肩甲帯の骨折 脱臼						
第3週	胸郭出口症候群 上腕上部の骨折						
第4週	上腕骨骨幹部 上腕骨遠位部の骨折						
第5週	肘関節及び前腕の骨折脱臼						
第6週	手関節及び手指の骨折 神経障害						
第7週	頸椎の骨関節疾患						
第8週	胸椎・腰椎の骨関節疾患 側弯症						
第9週	股関節及び大腿の骨折						
第10週	変形性股関節症・股関節脱臼						
第11週	変形性膝関節症 膝靭帯損傷						
第12週	膝靭帯損傷及び下腿骨骨折						
第13週	足関節及び足部の捻挫・アキレス腱断裂						
第14週	リウマチ①						
第15週	リウマチ②						
授業外学習指示等	授業内容に記載の疾患について、第1学年開講の整形外科Ⅰの講義内容を復習して臨むこと。対象疾患の病態と機能障害の因果関係を理解すること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	中枢神経障害系理学療法学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	中枢神経疾患に対する理学療法経験39年	担当	小倉 信作	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	中枢神経障害疾患群の病態を理解したうえで、理学療法評価の実施、治療プログラム立案及び実施を行えるようになることを目標とする。			評価方法			
授業概要	中枢神経障害疾患群の病態の理解とこれに対する理学療法の基本事項を理解させる。			期末試験 80% 平常点 20% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	中枢神経障害系理学療法学テキスト	使用器材					
週	授業項目・内容				実施結果		
第1週	中枢神経の全容						
第2週	片麻痺の原因						
第3週	脳血管障害の診断、急性期治療						
第4週	麻痺の評価						
第5週	急性期の理学療法						
第6週	重症片麻痺例に対する回復期理学療法 ①						
第7週	重症片麻痺例に対する回復期理学療法 ②						
第8週	軽症片麻痺例に対する回復期理学療法 ①						
第9週	軽症片麻痺例に対する回復期理学療法 ②						
第10週	片麻痺 日常生活における身体機能の活用 ①						
第11週	片麻痺 日常生活における身体機能の活用 ②						
第12週	片麻痺 基本動作 車いす操作						
第13週	片麻痺 合併症とその対策						
第14週	高次脳機能障害・嚥下障害と理学療法						
第15週	試験対策 まとめ						
授業外学習指示等	学習課題をノートにまとめる						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	中枢神経障害系理学療法学実習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	中枢神経障害患者に対する理学療法経験39年	担当	小倉 信作	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	中枢神経障害疾患群の病態を理解したうえで、理学療法評価の実施、治療プログラム立案及び実施を行えるようになることを目標とする。			評価方法			
授業概要	中枢神経障害疾患群の病態の理解とこれに対する理学療法の基本事項を理解させる。			期末試験 80% 平常点 20% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	中枢神経障害系理学療法学テキスト	使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	運動失調とは						
第2週	小脳性運動失調の理学療法						
第3週	小脳性運動失調の理学療法 症例の提示とロールプレイ						
第4週	パーキンソン病とは						
第5週	パーキンソン病の理学療法						
第6週	パーキンソン病の理学療法 症例の提示とロールプレイ						
第7週	頭部障害、低酸素性脳症						
第8週	多発性硬化症 筋委縮性側索硬化症						
第9週	脊髄損傷の原因とその障害像						
第10週	自律神経と脊髄損傷の随伴・合併症						
第11週	脊髄損傷の評価						
第12週	四肢麻痺の理学療法						
第13週	対麻痺の理学療法						
第14週	対麻痺の理学療法 症例の提示とロールプレイ						
第15週	試験対策 まとめ						
授業外学習指示等	学習課題をノートにまとめる						



令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	神経内科学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	小倉 信作	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	神経筋疾患の多様な症状と病理を理解し、理学療法展開の基礎を構築する。			評価方法			
授業概要	神経筋疾患の多様な症状と病理の解説			期末試験 100%以上 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	脳神経疾患ビジュアルブック	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	脳腫瘍						
第2週	脊髄疾患						
第3週	頭部外傷 水頭症						
第4週	感染性疾患						
第5週	感染性疾患						
第6週	認知症						
第7週	代謝・中毒性疾患						
第8週	末梢神経疾患						
第9週	末梢神経疾患						
第10週	脊髄疾患						
第11週	脱髄・変性疾患						
第12週	痙攣性疾患 てんかん・自律神経性疾患						
第13週	神経・筋疾患						
第14週	神経・筋疾患						
第15週	試験対策 まとめ						
授業外 学習指示等	学習課題をノートにまとめる						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	画像読影	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	診療放射線技師として病院勤務経験を有する	担当	井上 登	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	画像を見て、障害の程度を知る事が出来るようになる。 X線読影、CT画像、MRI画像超音波			評価方法			
授業概要	解剖学・整形外科学・内科・外傷学・病理学等の基礎的知識に基づいて、画像読影に必要な知識の整理と理解を確認する。次に、画像から病名を診断できるよう学習する。			期末試験 100%  (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	脳画像の見方と神経所見	使用器材	パソコン、USB				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	総論 1: 基本的読影	◎基本事項の確認 X線とは 正しい画像の見方					
第2週	2: 病的X線像の読影	◎異常像の理解					
第3週	正常像 脊髄、肩、肘、手、股、膝、足	◎正常像の理解					
第4週	CT、MRIの正常な見方	◎正常像の理解					
第5週	脳の正常像	◎正常像の理解					
第6週	脳の異常像見方	◎異常像の理解 CI、MRI					
第7週	脳疾患の見方 脳出血	◎疾患特有の画像所見の理解 CT、MRI					
第8週	脳疾患の見方 脳梗塞	◎疾患特有の画像所見の理解 CT、MRI					
第9週	脳疾患の見方 その他の疾患	◎疾患特有の画像所見の理解 CT、MRI					
第10週	骨壊死	◎疾患特有の画像所見の理解 CT、MRI					
第11週	慢性関節疾患	◎疾患特有の画像所見の理解 CT、MRI					
第12週	骨折	◎疾患特有の画像所見の理解 CT、MRI					
第13週	RA	◎疾患特有の画像所見の理解 CT、MRI					
第14週	胸部映像読影	◎総論・各論の疾患画像の理解					
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	より多くの画像をみて、正常像の理解をしておく。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	神経・筋障害系理学療法学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院で神経筋疾患患者の治療に携わっている	担当	高松 敬三	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	神経・筋障害系疾患の病態と症状、理学療法評価・治療について理解できる。			評価方法			
授業概要	脊髄損傷、脊髄小脳変性症、多発性硬化症等の疾患の基礎を学習し、その知識に基づき臨床における評価、理学療法のプログラム作成に役立てる。			期末試験 100%以上 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	臨床実習フィールドガイド	使用器材					
週	授業項目・内容				実施結果		
第1週	オリエンテーション、中枢神経の解剖評価						
第2週	脊髄損傷の症状・合併症						
第3週	脊髄損傷の損傷高位と評価						
第4週	脊髄損傷の機能残存レベルと動作①						
第5週	脊髄損傷の機能残存レベルと動作②						
第6週	脊髄損傷の理学療法						
第7週	脊髄小脳変性症						
第8週	筋萎縮性側索硬化症						
第9週	多発性硬化症						
第10週	ギランバレー症候群						
第11週	筋ジストロフィー基礎						
第12週	筋ジストロフィー評価・理学療法						
第13週	総まとめ						
第14週	国家試験対策						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	予習事項の指示を行うので、各自が予習をしたうえで授業に臨むこと。						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	発達障害系理学療法学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	現在心身障害児施設に勤務中	担当	小倉 秋奈	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 正常発達、反射の理解や流れを把握し、述べるができる。 2 各疾患の特徴を理解し、リハビリについて知識を深められる。 3 「小児理学療法とは何か」を理解することができる。			評価方法			
授業概要	発達障害について、総合的、体系的に学習する。 正常児の発達を学習した後、運動発達障害児について学習する。 小児の疾患の特徴を理解し、理学療法を実施する上で必要となる 評価介入の概要と構成要素を学習する。			期末試験 100%以上 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法学テキスト こどもの理学療法	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実 施 結 果	
第1週	オリエンテーション、正常姿勢反射と運動の発達（1）、胎児の発達						
第2週	正常姿勢反射と運動の発達（2）						
第3週	正常姿勢反射と運動の発達（3）						
第4週	正常姿勢反射と運動の発達（4）						
第5週	正常姿勢反射と運動の発達（5）						
第6週	発達障害の運動療法						
第7週	理学療法評価						
第8週	脳性麻痺 その1						
第9週	脳性麻痺 その2						
第10週	重症心身障害						
第11週	低体重出生児・ハイリスク児						
第12週	筋ジストロフィー						
第13週	二分脊椎、その他						
第14週	小児の装具						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	「小児のリハビリは難しい」という考えをまずはなくし、「子ども」の成長をまずは知ることから頑張っていきましょう。理解するには時間がかかりますが、楽しく「子ども(小児)」について学んでいきましょう。						